

# 事務事業評価シート

年度

6

## 1. 基本情報

事業番号	040204010006	事務事業名	羅漢の里もみじまつり事業		
まちづくり目標	心地よい生活環境が保たれたまち	施策	活気のあるまちづくり		
基本施策	地域資源を活かした観光の振興	取り組み事項	魅力発信により観光客を誘致する		
部名	市民生活部	課名	地域振興課		
事業の開始		終了年度	なし		
実施の概要	11月第2日曜日に矢野町瓜生の自然を利用したイベントとして、市民参加型のかかしコンテストやステージイベント、各種バザーなどを実施する。				
対象	市民・観光客				
目的	市の北西山間部の観光資源である羅漢の里を活用したイベントを開催し、観光客を誘致することで観光の振興を図る。				
事務事業類型	ソフト事業				
関連計画					
根拠法令					

## 2. 事業費

### (1) 歳出

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
正規職員数	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
会計年度任用職員数	0.08	0.18	0.08	0.08	0.08	0.08
人件費計	4,184,590	4,853,567	4,012,597	4,355,128	4,504,793	4,504,793
事業費計	47,438	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000
フルコスト	4,232,028	6,753,567	5,912,597	6,255,128	6,404,793	6,404,793

### (2) 歳入

単位:人、円

	実績値					計画値
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度予算	令和8年度
特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
フルコストー特定財源	4,232,028	6,753,567	5,912,597	6,255,128	6,404,793	6,404,793
事業費計ー特定財源	47,438	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000

## 3. 評価指標

### (1) 活動指標

指標名	かがしコンテスト出品件数					
単位	件					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値	90	90	90	90	90	90
単年度実績値	0	63	72	67		
前年比	-	-	114.28%	93.05%	-	-
単年度達成率	-	70%	80%	74.44%	-	-

## (2)コスト指標

指標名1	出展1件辺りフルコスト					
単位	円/件					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値	47,022.5333	75,039.6333	65,695.5222	69,501.4222	71,164.3667	71,164.3667
単年度実績値		107,199.4762	82,119.4028	93,360.1194		

## 4. 事後評価

## (1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B:比較的妥当である	矢野町瓜生の自然を活かし、羅漢の里や感状山などをアピールする場として妥当である。	なし
有効性	B:比較的有効である	実行委員会には地元自治会や地元の学校園のPTAも参加し、地域と一体となり行事を進行している。地域との連携や協力体制の構築に寄与しており有効である。	なし
効率性	B:比較的効率的である	事業コストの約50%を協賛金で賄っており、市内の主要な企業はすでに協賛企業としてご協力いただいている中、新たな協賛企業の開拓も難しい状況にある。現状以上のコスト削減は行事の実施に大きな影響を及ぼす可能性が高い。	あり
改革・改善プラン達成度	C:改革改善効果が低い	もみじまつりは35回目を迎え、実施時期、場所、内容ともに来場者及び参加者に定着し、人気のイベントとなっているが、新しいアイデアを取り入れた実施内容の工夫が必要である。	あり
透明性	B:比較的透明性を確保している	適宜HPや全戸配布などで情報提供を行っている。	なし

## (2) 総合評価

総合評価
B

## (3) 方向性評価(担当者)

方向性	B:現状のまま継続
所見	羅漢の里や感状山など相生市の観光資源をアピールする場でもあるとともに、地元の理解と協力のもと、今後も地域活性化のために創意工夫しながら、もみじまつりを継続実施する必要がある。
休止・廃止となったときの影響	羅漢の里や感状山など相生市の観光資源をアピールする場を失うこととなる。また、かがし作りが団体内でのコミュニケーションツールとなっていたり、設置後のかがしを見学に行くのが恒例行事になっている施設があったりと、市内各種団体と地域のふれあいの場がなくなるなど影響が生じることが予想される。

## (4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	C:改善・見直しの上で継続
所見	相生市の山側の観光資源をPRする場として、地元と協力しながら継続して実施する。